在宅における医療的ケアが必要な障害児者・家族への支援

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　助手　　藤井　愛
研究分野　：在宅看護学、障害看護、家族支援
研究室ＨＰ：https://www.instagram.com/usp_home_care_nursing/

近年、医療技術の進歩に伴い、人工呼吸器の管理や経管栄養などの医療的ケアを日常的に必要としながら在宅で生活される療養者が増加しており、彼らが地域で安心して家族とともに暮らし続けられるよう、さらなる支援の充実が求められています。そのため、特に医療的ケアが必要な障害児者・家族の生活体験を構造化し、地域生活において療養者、及び家族全体のwell-beingを目指す看護、および地域包括ケアの在り方を探求しています。

■医療的ケア児（者）の親が行う わが子の在宅生活のマネジメントの可視化

医療的ケア児（者）の日常の介護は、そのほとんどが家族―特に母親を中心になされています。彼らが在宅生活を長期にわたり継続するためには、家族の「マネジメント力」が重要であるといわれており、わが子の体調管理はもちろん、発達の促進、家庭内外における環境調整など、日々、多様で複雑な事象をマネジメントしながら在宅生活を送っているものと考えられます。

医療的ケア児（者）・家族への支援は個別性が極めて高いとされているほか、支援体制の地域差も大きく、支援者側の課題が山積しています。そのため、地域における当事者家族の生活実態に即した具体的な支援の検討に向けて、当事者の視点から行われているマネジメントに着目し、生活体験を可視化・構造化することを進めています。

■在宅における医療的ケア児・家族への看護実践の構造化：多職種連携の意図と実践内容

多くの医療的ケア児にとって、訪問看護の支援は児と家族の生活を支える重要な資源となっています。一方で、医療的ケア児への支援に困難感を抱く訪問看護師・事業所はいまだ多く、受け入れの拡大が課題となっています。そのため、医療的ケア児とその家族を対象とした訪問看護実践について、訪問看護師がどのような意図でどのような実践を行っているのかを可視化し、地域における訪問看護の質向上と訪問看護事業所の受け入れ拡大につながる教育的支援の検討を進めています。

≪乳幼児期の医療的ケア児・家族への訪問看護における多職種・多機関連携の意図（連携先）≫

① **円滑な在宅移行に向けた支援環境づくり**（地域連携部門看護師・病棟看護師　など）
　ex：退院後の医療的ケア児との生活に関する家族のイメージ・理解の確認
　　退院前からの情報提供依頼・相談・医療的ケアの手技教授

② **医療的ケア児の体調改善・安定**（医療者）
　ex：医療者間での医療的ケア児の体調に関する課題の明確化と症状マネジメント

③ **医療的ケア児の体調悪化・喪失に揺らぐ家族への精神的支援**（医療者・保健師　など）
　ex：家族への精神的支援のための意思・家族の対話内容の確認

④ **医療的ケア児の成長発達・社会化促進**（医療者・相談支援専門員・児童発達支援・保育所　など）
　ex：医療的ケア児の成長発達促進に向けた具体的な支援方法の相談

⑤ **医療的ケア児と生きていく家族のセルフケア力育成・強化**（医療機関・福祉施設・同病者家族　など）
　ex：家族主体の課題解決のための課題ごとに役立つ支援者・機関の橋渡し

⑥ **幅広い家族の困りごとへの対応・備え**（医療者・相談支援専門員　・ヘルパー・学校・保育園など）
　ex：医療面以外の各課題に適した他の支援者・機関との情報共有や支援要請

■その他：在宅ケアに関わる専門職・家族を対象としたコンサルテーション・事例検討

滋賀県湖東・湖北圏域を中心として、訪問看護などの在宅ケアに関わる専門職と協働し、地域における実際の困難事例のコンサルテーションや事例検討など、在宅ケアの質向上に向けた取り組みを推進しています。